

8:25 パロはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「さあ、この国内でおまえたちの神にいけにえをささげよ。」

8:26 モーセは答えた。「そうすることは、とてもできません。なぜなら私たちは、私たちの神、主に、エジプト人の忌みきらうものを、いけにえとしてささげるからです。もし私たちがエジプト人の目の前で、その忌みきらうものを、いけにえとしてささげるなら、彼らは私たちを石で打ち殺しはしないでしょうか。」

8:27 それで私たちは荒野に三日の道のりの旅をして、私たちの神、主にいけにえをささげなければなりません。これは、主が私たちにお命じになることです。」

8:28 パロは言った。「私は、おまえたちを行かせよう。おまえたちは荒野でおまえたちの神、主にいけにえをささげるがよい。ただ、決して遠くへ行ってはならない。私のために祈ってくれ。」

8:29 モーセは言った。「それでは、私はあなたのところから出て行きます。私は主に祈ります。あす、あぶが、パロとその家臣とその民から離れます。ただ、パロは、重ねて欺かないようにしてください。民が主にいけにえをささげに行けないようにしないでください。」

8:30 モーセはパロのところから出て行って主に祈った。

8:31 主はモーセの願ったとおりにされたので、あぶはパロとその家臣およびその民から離れた。一匹も残らなかった。

8:32 しかし、パロはこのときも強情になり、

民を行かせなかった。

パロはイスラエルに「この国内でおまえたちの神にいけにえをささげよ。」と命じました。この世の権力は自分の範疇にとどめておくことを画策します。またクリスチャンに対しても、信仰がいまいなところで妥協させようとしします。

しかし、救いと滅びに中間点はなく、信仰と不信仰には接点がありません。私たちは明確な信仰を持って、国籍が天にあることを示す必要があります。そうでないとやがて、滅び行くこの世や、神のようにふるまう権力に吸収されてしまうからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

